

**食品に関するリスクコミュニケーション（東京）
魚介類等に含まれるメチル水銀に係る食品影響評価に関する意見交換会
アンケート集計結果**

開催日：2005年7月19日（火）

参加者数：128名 回答数：89名

回答率：69.5%

問1. あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします。

年齢

回答内容	件数	割合
1.20歳未満	0	0.0%
2.20歳代	6	6.7%
3.30歳代	17	19.1%
4.40歳代	23	25.8%
5.50歳代	27	30.3%
6.60歳代	12	13.5%
7.70歳以上	4	4.5%
無回答	0	0.0%
	89	100.0%

職業

回答内容	件数	割合
1.消費者団体	10	11.2%
2.主婦、学生、無職	7	7.9%
3.生産者	6	6.7%
4.食品関連事業者・団体	26	29.2%
5.マスコミ	3	3.4%
6.行政	19	21.3%
7.食品関連研究・教育機関	8	9.0%
8.その他	10	11.2%
環境コンサル(1)分析機関(1)		
食品技術コンサルタント(1)		
公益法人(漁業団体)職員(1)		
生産者指導団体(1)NPO(1)		
広報(1)ISO審査機関(1)		
生産者団体(1)食品包装資材製造(1)		
無回答	0	0.0%
	89	100.0%

本日の意見交換会開催をどこでお知りになったか

回答内容	件数	割合
1.食品安全委員会のホームページ	42	47.2%
2.食品安全委員会からのご案内資料	16	18.0%
3.関係団体からのご案内資料	17	19.1%
4.知人からの紹介	7	7.9%
5.新聞、ポスター、チラシ	0	0.0%
6.その他	6	6.7%
登壇者の随同行(1)		
食のエクスペレス(1)		
農水省メールマガジン(2)		
会社より(2)		
無回答	1	1.1%
	89	100.0%

本日の意見交換会に参加された動機

回答内容	件数	割合
1.魚介類等に含まれるメチル水銀に関する情報を収集するため	29	32.6%
2.魚介類等に含まれるメチル水銀に係る食品健康影響評価の詳細を知りたかったから	32	36.0%
3.政府や専門家に直接意見を言いたかったから	2	2.2%
4.業務の一環として参加する必要があるため	14	15.7%
5.政府の行うリスクコミュニケーションの取組みについて知るため	9	10.1%
6.その他	3	3.4%
リスクコミュニケーションの研究のため、観察者の立場となって参加。(1)		
食の安全と健康をつなぐ食生活のあり方を広げるため。(1)		
消費者の方々の意見、理解を知るため。(1)		
無回答	0	0.0%
	89	100.0%

「100%安全な食品はないこと」について、あなたはどのように思われますか。

回答内容	件数	割合
1.強くそう思う	52	58.4%
2.ややそう思う	28	31.5%
3.あまりそう思わない	6	6.7%
4.全くそう思わない	1	1.1%
5.わからない	1	1.1%
無回答	1	1.1%
	89	100.0%

問2. 本日の意見交換会の実施方法についてお聞きします。

意見交換会の開催時期（意見募集期間中に意見交換会を開催することについて）

回答内容	件数	割合
1.とても適切だった	6	6.7%
2.適切だった	74	83.1%
3.あまり適切ではない	4	4.5%
4.全く適切ではない	1	1.1%
無回答	4	4.5%
	89	100.0%

開催方法（参加手続き・場所・所要時間）

回答内容	件数	割合
1.とても適切だった	4	4.5%
2.適切だった	67	75.3%
3.あまり適切ではない	12	13.5%
4.全く適切ではない	0	0.0%
無回答	6	6.7%
	89	100.0%

配布資料

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	6	6.7%
2.わかりやすかった	60	67.4%
3.わかりにくかった	19	21.3%
4.全くわからなかった	0	0.0%
無回答	4	4.5%
	89	100.0%

専門家による講演

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	14	15.7%
2.わかりやすかった	52	58.4%
3.わかりにくかった	19	21.3%
4.全くわからなかった	0	0.0%
無回答	4	4.5%
	89	100.0%

パネルディスカッションの進め方

回答内容	件数	割合
1.とても適切だった	7	7.9%
2.適切だった	61	68.5%
3.あまり適切ではない	9	10.1%
4.全く適切ではない	1	1.1%
無回答	11	12.4%
	89	100.0%

意見交換時の応答

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	8	9.0%
2.わかりやすかった	53	59.6%
3.わかりにくかった	17	19.1%
4.全くわからなかった	0	0.0%
無回答	11	12.4%
	89	100.0%

意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1.評価する	16	18.0%
2.おおむね評価する	57	64.0%
3.あまり評価しない	7	7.9%
4.全く評価しない	0	0.0%
無回答	9	10.1%
	89	100.0%

問3. 食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

回答内容	件数	割合
1.委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと（原則公開されていること）	60	23.5%
2.食品安全委員会ホームページ	74	29.0%
3.食の安全ダイヤル	30	11.8%
4.季刊誌『食品安全』	35	13.7%
5.食品の安全性に関する政府広報	25	9.8%
6.その他	2	0.8%
食品の安全性に関する用語集(1) リスクコミュニケーション「BSE」(1)		
無回答	29	11.4%
	255	100.0%

問5. ご意見・ご感想

1	資料が専門家むけだなあと感じました。説明のなかで示されたグラフなど、分かりやすかったと思いますが、配布のなかにはなく残念。
2	コミュニケーションの難しさを思い知りました。
3	何もわからない消費者はわからせる手段を考えなければいけないと思います。
4	17.7.20朝日朝刊のBSEに関する全面広告に対する食品安全委員会の見解を聞かせていただきたい（HP上でかまいません）。
5	委員の説明パネルの下の方がみえなかった。メモするだけで聞きとりが大変なので、資料は必ず配布してほしい。
6	最近サプリメントの消費がおおきくのびて来ているが、1つの例であるがVEは抗酸化剤etcで使用されて添加されているが、最近一定量を越すと逆に健康面で問題ありと云われている。他国の規制も含めて食の安全面でご検討願いたい。
7	評価機関と管理機関のリスクコミュニケーションの区分があいまいであったと感じた。ディスカッションでの話題の中には、管理機関で行うべきものも多く含まれていたように思う。
8	「食品に関するリスクコミュニケーション」のタイトルは誤解多いように思います。参加者はもっと現実的な点からの意見が強く、これは厚生労働省がこの評価を使って適用（運用）する際の意見が多かったように思います。このため、食品安全委員会と厚生省を通じたリスクコミュニケーション（意見交換会）とすべきだと思います。ちなみに今後、厚生省への答申後のこの種の意見交換会は開催されるのでしょうか？どこかで公表して下さい。
9	資料の用語集はとてもよいです。メディアの人は、どうしてパネルに参加していないのですか？パネルディスカッションとリスコミは別のものだと思うのですが…。パネルディスカッションはよかったです。リスコミのテーマがじつはよく分かりませんでした。「何を」コミュニケーションするのか…。リスコミのルール（マネジメントは今回話題にしないとか）の提示もないので、日本人には難しいと思います。リスクマネジメントの話は、やはり先生方へ回答を求めるのは気の毒です。消費者の頭を整理してもらうためにもはっきりとしていくべきです。
10	1. 日々の暮らしの中で何をどれくらい食べていけばいいのか。具体的な数値が話されないで意見の述べようがない。2. 日本人はトロ好きである。カツオ、マグロ、サバ、アジ、サケ何でも脂の乗ったものが好きで、しかも養殖、蓄養でアブラの乗ったものを日常的に食べているが、それらの水銀含有量は自然魚と比べてどうだろうか。3. 健康食品の問題も影響は大きいと思われる。
11	有意義でした。しかし、時間延長出来る場所にすべき。
12	2. 0µg/kg/週の量を摂取するには0.3ppm含まれた魚を1週間に400g以上食べなければリスクにはならない、との答えが先生からありました。0.3ppmの含まれた魚はいないような話しぶりでしたが、2年前の妊婦は金目鯛を含む大型魚を沢山食べないよとの報道におどろいた事が嘘になるのでしょうか。魚のメチル水銀含有量をぜひ公開して下さい。
13	開始時間が途中半端なので午後1:00~or2:00（せめて）等の開始にしてもらわないと帰りが大変遅くなります。もう少し具体的な魚種やUOC（摂取）等のデータの披露がないのが残念でした。
14	自らの利益のみしか追わない生協や消費者団体は不要である。彼らは何を求めているのか理解できない。ゼロリスクはほとんどない事を理解してから参加させるべき。
15	先生のご説明は大変親切でわかり易く、科学的知識の低い私にも興味深く拝聴出来ました。氏の食品安全委員会外の専門家の意見の聴取も必要かとの意見に参同します。その上で一般の消費者等とのリスクコミュニケーションとなれば、尚、一般人には判断しやすいと思います。開会前の会場案内について「いらっしやいませ、こちらの方が席が空いてございます」等の案内のされ方は、あまりにも丁寧過ぎて違和感がありました。もっと簡単で良いのではないのでしょうか…（どうでも良い事です）。氏の対日本人で調査研究した数値も今後必要か…と
16	問2-1:何故BMDLを用いるのか。理由がよくわからなかった。問2-2:ファシリテータが食品安全委員であるのはフェアでない（進め方はフェアではあったが）。市民・消費者側メンバーのパネリストを増やすべき。
17	・時間が無いから質問はムリとはいわないでほしい。 ・席を、消費者、業界、行政など列にわけすわり、質問がたよらないようにしてほしい。
18	開催時期を早め、会場、時間とももっと確保してほしい。このような会だと今後つづけても意味はないと思う。
19	特に生協関係の人々の質問が類似している。その辺の仕切りをうまくやって頂ければ、もっとスムーズになると思います。
20	消費者が食品の安全性に関して、安心へ移行出来ない部分が多くあり、食に対する理解が不十分であると考えます。
21	ゼロ・リスクを希求するのではなく、リスクを前提として、そのリスクと上手に付き合っていく方法を提案・提供する場であることを期待したい。
22	とてもわかりやすく、参考になりました。もっと時間に余裕があればもっと良かったと思いました。本日はどうもありがとうございました。
23	リスク管理への質問も多く出たので、リスクコミュニケーションはあらゆる立場の方々の参加も必要ではないか（台場にいれるべき）。
24	PRの方法をもう少し考えてほしい（このコミュニケーションの機会を知るべき方法）（逆に安全性をもっと訴えてほしい）。
25	安全委員会は数値の設定でよいが、問題は公表の仕方だと思います。ある特定のものが風評被害を受けないような、正しい水銀の摂取量の目安を検討して下さい。
26	大変わかり易い意見交換だったと思います。疫学調査は人であることの良さはあるが機序まではわからない。セレンなどの無毒化作用についても評価の余地があるのではないのでしょうか？
27	・専門的分野についての評価をわかり易く解説することは困難であるが、もう少し平易に説明してほしい。 ・日本人に対するリスク評価をするのに、2つの海外でのデータのみで算出されたのは問題。
28	今、何故メチル水銀なのか。日本のデータ値からではなく、データ値の少ない中での外国の数値データである。やはり、食文化、習慣、人類個体差、複合、リスク問題では、一般成人、高齢者、胎児、脳性疾患のある人等のリスクはどうか。
29	意見交換会のときに用いた図の単位がそれぞれ異なっているのはどうか？
30	講演はわかりにくくはなかったが、専門家向であった気がする。大学の講義でないのだから、もう少し一般大衆に理解できるレベルにしてほしい。具体的な食の量を提示しないのはマイナス。リスクコミュニケーションとマネジメントは違うと言われてもわかりにくいのではないかと。
31	意見交換の際に出ましたが、やはり数字だけでは現実が見えてこないと思われ、何らかモデル（特定の魚）を出しての説明が絶対必要と思われず。
32	講義の中で専門用語が多く、資料にも多い。最初の用語に説明書きがあると、後に見直す時に有効と考える。
33	・食品安全委員会の法律の改正の為あっている様に拝見された。 ・今回の前に厚生労働省がリスクコミュニケーションを行うべきと思う。